

第1回葛飾区スタジアム構想事業検討委員会 会議概要

1 会議の概要

日 時：令和8年7月3日（金）17:30～19:00

場 所：葛飾区役所新館7階 705・706 会議室

出席者：上林委員、後藤委員、高柳委員、福原委員、脇崎委員、腰塚委員、鈴木委員

欠席者：植田委員（委員紹介後に退席）、小野委員

2 議事

（1）委員委嘱・委員紹介・委員長・副委員長の選出

委員からの推薦により、上林委員を委員長に選出

上林委員長からの推薦により、後藤委員を副委員長に選出

（2）スタジアム整備の検討状況について

事務局から資料に基づき説明

（3）スタジアムのあるべき姿について

スタジアムの将来像、公共性、まちづくり、防災、収益性、区民参加等について、委員間で意見交換

3 議事要旨

スタジアム整備の検討状況を踏まえ、委員間で議論を行った。スタジアムの方向性や今後の検討課題に関する委員からの主な意見は次のとおり

○スタジアム単体ではなく、まちづくりの視点で捉えるべきとの意見

- ・ スタジアムを単体施設ではなく、東新小岩運動場、新小岩駅周辺、葛飾区全体のまちづくりの中で位置付けるべき。
- ・ 現在の東新小岩運動場が持つ開放性や、地域に開かれた空間を生かすことが重要。
- ・ 駅前から敷地周辺に自然な人の流れを生み、施設内外ににぎわいが広がる空間づくりが求められる。
- ・ スタジアムの影響により、周辺地域の路線価が上がり再開発の促進が想定される。新しい住民の流入による新旧のコミュニティの交流など、街の変化に対応したまちづくりへの視座を持つ必要がある。

○試合開催日だけでなく、365日利用される開かれた施設とすべきとの意見

- ・ スタジアムの価値は、試合開催日だけでなく、試合のない日にどのように使われるかが重要。

- ・ 散歩、交流、軽い運動、イベント、学びなど、日常的に利用できる開かれた施設・公園とすることが望ましい。
- ・ 地域住民が日常の延長として立ち寄れる場所にする事で、地域に愛される施設につながる。

○防災機能を備えた地域拠点として位置付けるべきとの意見

- ・ 荒川・江戸川に挟まれた立地や、首都直下地震、水害、木造住宅密集地域等の課題を踏まえ、防災機能を備えた地域拠点として位置付けるべき。
- ・ 防災機能は非常時のみでなく、平常時の利用と有事の活用がつながるように設計することが重要。
- ・ 区民に加え、通勤・通学等で地域を訪れる人への災害時の受け入れや支援も検討する必要がある。

○スポーツを通じた健康づくり、ウェルビーイング、人材育成の場とすべきとの意見

- ・ スポーツを通じた健康づくり、元気なまちづくりに資する施設とすることが重要。
- ・ スポーツを「する」だけでなく、「みる」ことを通じて、子どもたちがスポーツに関心を持つきっかけとなる施設を目指すべき。
- ・ 部活動の地域移行、大学スポーツ、学習支援、子どもの育成など、教育・人材育成の場としての活用も考えられる。
- ・ 外国人、障がい者、子ども、高齢者など多様な人々が関われる、インクルーシブ（※1）でウェルビーイング（※2）に資する場とすることが望ましい。

○地域産業、商業、観光との連携により地域活性化につなげるべきとの意見

- ・ 小規模事業者や町工場が多い葛飾区の地域特性を踏まえ、スタジアムを地域産業・商業との連携拠点として活用することが考えられる。
- ・ 葛飾産業フェア等の地域イベントとの連携、区内産業の発信、来場者による飲食・買い物など、地域経済への波及が期待される。
- ・ キャプテン翼、南葛 SC、大学スポーツ等の地域資源を組み合わせ、区内外や海外への発信につなげることができる。

○公共性と経営性を両立させるべきとの意見

- ・ スタジアムを従来型のコストセンター（※3）ではなく、収益を生み出し地域に還元するプロフィットセンター（※4）として捉える視点が重要。
- ・ ネーミングライツ、民間運営ノウハウ、収益の一部を駅前環境整備やプロムナード整備等に還元する仕組みが考えられる。
- ・ 一方で、都市公園内の公共的施設として、区民利用、教育、健康、防災、福祉等の公共的価値を明確にする必要がある。
- ・ スタジアム予定地は鉄道路線の北側に位置する希少な立地であり、南側からの日照により施設南面の視認性が高まることから、鉄道車窓等からの広告効果や

施設の象徴性の向上が期待できる。

- ・ 収益性のみを追求せず、公共性と経営性の両立を図ることが重要。

○新しい葛飾区のシンボルとして、広域的な価値を持たせるべきとの意見

- ・ スタジアム整備により、葛飾区の新たなシンボルとなる可能性がある。
- ・ J 1 基準の球技専用スタジアムは区内にとどまらず、東京都や関東圏全体における広域的な価値を考える必要がある。
- ・ 葛飾区モデルとして、産官学民があらゆるリソースを連携させ、スポーツを軸とした果たすべき地方自治体の在り方を全国に発信するシンボルとしての機能を期待する。
- ・ キャプテン翼や 23 区初のサッカー専用スタジアムとしての可能性を生かし、スポーツを軸としたまちづくりのモデルを発信する施設を目指すことが考えられる。

○将来を見据えた柔軟性、ICT、データ活用、施設機能の高度化についての意見

- ・ データサイエンス、ICT、映像分析、デジタルツイン（※5）など、将来のスポーツ観戦や施設運営の高度化を見据えた機能について検討する必要がある。
- ・ 収容人数だけでなく、映像配信、演出、データ活用、柔軟な施設利用により、スタジアムの価値を高められる可能性がある。
- ・ 気候変動への対応、多目的利用、収益性向上の観点から、開閉式屋根や昇降式ピッチ等も将来的な論点として整理する必要がある。
- ・ これらの機能は直ちに導入を前提とせず、費用対効果や実現可能性を含めて今後検討すべき。

○区民意見の把握と、今後の議論についての意見

- ・ 専門家による議論に加え、区民の思いや要望・ニーズなどを参考にすると議論が豊かになる。
- ・ 既に他のスタジアムプロジェクト等で子どもを中心としたインタビュー調査やアンケート調査を行っているが、本件でもより広くスタジアムのあり方に対して、地域から意見を求めたい。
- ・ 地域住民、中高生、スポーツ関係者等から、このスタジアムに期待している点等について幅広く意見を聞きたい。
- ・ 構想策定や整備の過程においても、区民との関わりや情報公開を重視し、機運醸成につなげることが重要。

※注釈

※1 インクルーシブ：年齢や障害の有無などにかかわらず、誰もが参加しやすいこと

※2 ウェルビーイング：健康、幸福、地域との繋がりなどを含む、より良い暮らしの実現

※3 コストセンター：主に費用が発生する施設・部門

※4 プロフィットセンター：収益の創出を重視する施設・部門

※5 デジタルツイン：現実空間を仮想空間に再現し、分析や予測に活用する技術

4 その他

委員より、区民等がスタジアムに期待することやニーズを把握することで、今後の議論をより深めることができるとの意見があった。これを踏まえ、アンケートを実施する予定である。